

国保保健事業に ついて

令和7年2月17日
健康ほけん課 健康づくり班

令和 6 年度実施事業

I 未受診者対策

①未受診者受診勧奨通知（7月、10月）

特定健診の受診状況に応じ、連続受診者・不定期受診者・未経験者に分け、レセプト情報を用い、7つのセグメントに分類し受診勧奨通知を発送

②訪問および電話勧奨

市の保健師・管理栄養士および会計年度任用職員（看護師・管理栄養士）で健診未申込者への訪問や電話勧奨を実施。また、申込者で健診受診が確認できなかった市民へ電話勧奨を実施

③無料クーポン、景品贈呈

40・45・50・55歳の特定健診対象者へ無料クーポンを発行
8月末までに特定健診を受診した人の中から抽選で景品の贈呈

④スペシャル健診の導入（1日1組限定）

日赤健康管理センターでの特定健診に、インボディ測定とヘルシーランチ付き。インボディ結果から運動指導士のアドバイス及び管理栄養士から食事のアドバイスを行う



Ⅱ 重症化予防

① 健診結果相談会

特定健診や生活習慣病健診を受診し、受診勧奨判定値以上だった人が対象。保健師、管理栄養士が個別に保健指導を実施

② 健診結果説明会（委託先：菊池養生園）

特定健診、生活習慣病健診、後期高齢者健診を受診した人が対象
集団で健診結果の見方を説明し、必要に応じて個別相談を実施



③ 特定保健指導

特定保健指導対象者に、保健師・管理栄養士が3～6カ月間、個別保健指導を実施

④ 訪問指導

高血圧や糖尿病の管理台帳で抽出された人に対し、健診未受診者へは健診の受診勧奨、治療中者へは治療状況の確認、未治療者へは病院への受診勧奨を実施

Ⅲ 健康づくり事業

① 大人のカラダ革命

40～60歳の市民を対象に全5回実施。
保健師、管理栄養士の講話、コレカラダスタッフによる運動実技、
管理栄養士考案レシピの調理実習



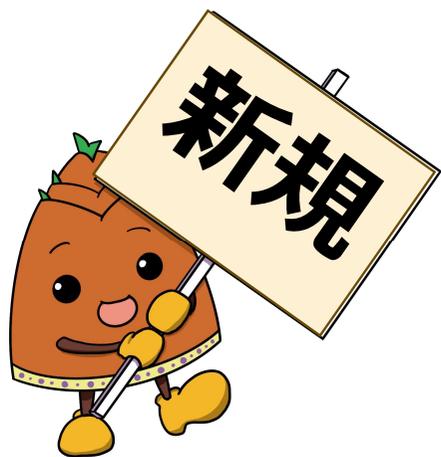
② 減塩みそ玉レシピの作成

管理栄養士が減塩みそ玉をレシピを作成し、
がん複合検診受診者に減塩みそ汁を配付
試飲してもらい、高血圧予防について伝えた



③ 各区や高齢者サロン等での健康教室

依頼があった区等にインボディや骨密度測定を実施し、フレイル予防や骨折予防の講話を実施



令和7年度実施予定事業

第3次健康増進・食育推進計画策定中（令和7年3月末策定）

健診データ等の分析や市民アンケートを実施し、住民の主体的な健康づくりを支援するため3つの取り組みの柱を置き、19の施策の方向性を設定します。

その中でも、本計画で特に取り組んでいくこととして

若い世代からの生活習慣病予防！

現状と課題

- ①人口の社会増が続いており、年代別にみると40歳代が一番多い
- ②特定健診受診率は年々増加しているものの、県下45市町村のうち44位
- ③国保加入者の若い世代（40・50歳代）の特定健診受診率が低い
- ④特定健診受診者のうち、糖尿病の指標の1つであるHbA1cの保健指導レベル（5.6%以上）該当者は約7割いる
- ⑤特定健診を受診してる60歳代以降に高血圧などの有所見者が多い
- ⑥生活習慣病は自覚症状がないまま進行するため、健診未受診者が多いことから、すでに生活習慣病を引き起こしている者もいることが推測される

◆未受診者対策

★生活習慣病健診の受診体制の整備

①対象年齢の見直し

26歳から39歳の合志市民が対象⇒20歳から39歳の合志市民を対象とする

②健診機関の拡大

菊池養生園のみで受診可能⇒菊南病院、日赤健康管理センター、高野病院を追加

★スペシャル健診の整備

①開始時期の見直し

9月から開始⇒6月から受診可能にし年間を通して受診可能とする



◆健康づくり事業

①大人のカラダ革命（運動編・食事編）

40～60歳の市民を対象に全5回
市民から要望のあった、運動編と食事編に分けそれぞれ実施予定
保健師や管理栄養士の講話は継続実施



②疾病別健康教室

糖尿病予防に特化した教室
30～60歳で血糖値、HbA1cが基準値以上の市民を対象に全3回
インボディなどの測定
糖尿病専門医や保健師・管理栄養士の講話

③商業施設で健康づくり

市内の商業施設において、健康づくりコーナーを設置してもらい、
市民の健康意識の向上のきっかけづくりを行う
また、企業の協力のもと、血管年齢測定などを行う

まずは **-2** 減塩で健康生活

目標は現在の摂取量から
まずは-2g。だし・柑橘類・
香辛料等を使って、
おいしく減塩。
栄養表示を見て、
かしこく減塩。

おいしく減塩
まずは
1日マイナス2g

健康寿命をのびせよう
SMART LIFE PROJECT

厚生労働省